

郵便  
報知新聞  
第八百十四号

加賀国十四大區小川町の辺ふ日  
蓮宗の一愚僧あり生来放蕩般若と  
言とせ一方便品の塵語八部酒と女の功  
力より蓮華の鼻の陥落せし檀家の不  
與云ふも更之異名と莫高上人と稱せし  
近郷金石とら内村里ふ家家のく一合子息  
今年十九才あり齋戒を臥し薬の功驗  
非ざるといふ神社佛寺へ祈禱せしも更ふ快  
氣に至らざるより彼上人に加持せし法  
力神速るに或の進むるも其意ふ  
任せ頼まざる上人奉教承引く護ると發  
立著極く煙一烈敷誦経けれ病者を  
忽ち逆上せし莫高上人得る願をも古  
拙よ早生体顕せし持を珠教みてちつ均く  
病者の怒り起上人と蹴倒し狂狂病  
交症を以て邪欲の真僧の所業と是凡の  
迷心を生ぜしん歎の教も亦恐るべし



南兵町十四番地 小舟町三丁目  
月岡米次郎画 土番地紙台左七